

第 1822 回 (7 月 18 日)

ベトナム紅河デルタの
村落組織と農村金融

——ナムディン省一集落の調査事例より——

岡 江 恭 史

近年のベトナム（とりわけ共同体的規制の強い紅河デルタ）では、農民会（Hội Nông Dân）等の村落組織が、農業部門の信用事業を行う国営商業銀行である農業銀行（正式名称は農業農村開発銀行 Ngân Hàng Nông Nghiệp và Phát Triển Nông Thôn）や、貧困世帯への政策的低利融資を行う貧民銀行（Ngân Hàng Phục Vụ Người Nghèo）の融資を仲介している。

本報告は、ナムディン省（tỉnh Nam Định）の一つの集落（xóm）における調査事例（2000 年 5 月に、融資を仲介する組織、および調査時点までに実行されたすべての融資について調査）からベトナムにおける農村金融の現状と問題点を考察する。

調査集落においては、全 134 世帯のうち、これまで 20 世帯が 30 件の銀行融資を受けていた。うち、農業銀行の貧困世帯優先借入基金（Quỹ Cho Vay Ưu Đãi Hộ Nghèo, 貧民銀行融資以前に行われていたプログラム）の融資が 3 件、貧民銀行の融資（96 年～現在）が 21 件（うち農民会経由が 13 件、婦女会（Hội Phụ Nữ）経由が 4 件、退役軍人会（Hội Cựu Chiến Binh）経由が 4 件）、借り入れグループ（Tổ Vay Vốn）を通じての農業銀行の融資（99 年～現在）が 6 件であった。

調査集落では、99 年より借り入れグループ（集落長がグループ長を兼任）が結成され、この借り入れグループに加入することによって農民が農業銀行の融資を受けられるようになった。現在集落全体のうち 72 世帯が借り入れグループに加入している。また、一件あたりの融資金額は貧困世帯優先借入基金が

70～100 万ドン、貧民銀行が 100～300 万ドン、借り入れグループを通じての農業銀行の融資が最高 1,000 万ドンである。これらのことから、年を追うごとに農民の資金需要が増大しているのがわかる。

また、同一の世帯が複数回の融資を受けている例が多くあり、その中には貧民銀行の少額融資ののち農業銀行のより高額な融資へとランクアップしていく農家もいくつか見られた。現時点では銀行融資を受けた人間は集落内では少数派ではあるが、徐々に近代的な金融制度が浸透していつているようである。

また、婦女会・退役軍人会・古老会（Hội Người Cao Tuổi）、そして集落全体が、それぞれ基金を積み立て、貸出も行うという一種の“講”の様な活動をしているが、資金規模は銀行の融資に比べて小さく、農民の生活には大きな地位を占めていない。また、銀行やこれらの基金以外の金融には、親戚からの無利子の貸し借りがある。

なお銀行融資に際しては、以下のような問題が見られた。

第 1 に、農民会支会長、前集落長の親族などに融資が行われていることである。このことは集落の指導層によって恣意的な融資仲介が行われている可能性を示唆する。

第 2 に、農業生産を名目に融資を受けて、実際には他の目的（家の修復、子供の学費、家族の医療費、商売等）に使用している例が多数（今回の調査でわかっただけでも 30 件中 12 件）みられた。なお調査集落の指導層はこのように名目と違う融資が行われることを承知の上で、資金要求のある農民と県（huyện, 日本の郡にあたる）レベルに存在する銀行の間を仲介している。

特に第 2 の問題は、現在のベトナム農村には、生活のための金融制度も農業生産に関する保険もほとんど存在しないといった制度面での問題とも関係し、ベトナム農村金融の発展にとって大きな課題となるであろう。